

■ 令和8年度DXアドバイザーチーム等運営業務公募型プロポーザル 質問回答

No	項目	質問	回答
1	6(1) DXアドバイザーチーム等事務局業務 ⑬ 有識者会議の開催について	オンラインで利用するコミュニケーションツールはTeamsでよいか。	指定のコミュニケーションツールはありません。 なお、県の環境において、Teams、Zoom、Webexの動作実績がございます。
2	6(2) DXアドコン実施支援業務 ⑥ DXアドコンについて	オンラインで利用するコミュニケーションツールはTeamsでよいか。	No1のとおりです。
3	6(2) DXアドコン実施支援業務 ⑧ 庁内支援体制との連携について	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIデジタルツール活用支援は、具体的にどのような活動をしているのか。</li> <li>AI利活用支援チーム（仮）は何人規模のチームか。</li> <li>AI利活用支援チーム（仮）に対して、コミュニケーションツールの提供が必要か。</li> <li>各種調整等を実施とあるが、県は事務局に対しどのような役割を期待しているのか。</li> </ul>	<p>AI 利活用支援チーム（仮）（以下、この回答項目において「チーム」という。）は、令和8年度からの新たな取組であり、庁内の特定業務（2業務）に対し、AI等デジタルツールの活用に向けた各種支援を実施し、業務の効率化等を目指すこととしております。</p> <p>チームの体制として、CDO補佐官、県（デジタル社会推進課2～3名）、県庁内関係各課（6名程度）、DXアドバイザーチーム（4名）をメンバーと予定しているところです。</p> <p>チームへのコミュニケーションツールの提供については、上記に述べた県庁内関係各課の職員を除くチームの7～8名です。なお、6(1)⑩に示している提供先とチームのメンバーは重複しておりますので、追加提供分は1名程度を想定しています。</p> <p>期待する役割として、チームでのDXアドコン実施にかかる日程調整・機材準備・当日対応・議事作成のほか、アドコン実施時における受託者のこれまでの経験等に基づく積極的な議論への参加、庁内の特定業務に関して情報を得た際の共有といった、チームがより効果を発揮できるよう前向きな取組を期待します。</p>
4	6(3) DXアドコン利用促進・伴走支援業務 ②「DXアドコンよろず相談会（仮）」について	今年度のよろず相談ではどのような相談があったか。解決まで至った事例のなかから、多く相談があったものを1から数件程度、提供して欲しい。	今年度のよろず相談会では、ノーコードツールや生成AIといったデジタルツールの活用相談、マクロ改修に関する相談、データの効率的な管理手法の考え方、デジタル技術を活用した業務改善の方向性について、等の相談がありました。 なお、本よろず相談にて課題等を把握し、DXアドコンを実施した事例もございます。

No	項目	質問	回答
5	6(3) DXアドコン利用促進・伴走支援業務 ③プル型支援・プッシュ型支援について	今年度のプッシュ型支援はどのような方法で実施したか。事例を提供してほしい。	今年度においては、勉強会に参加した職員やよろず相談実施者へのアプローチを中心に実施したところです。
6	6(3) DXアドコン利用促進・伴走支援業務 ③ア プッシュ型支援の実施に向けた個別アプローチについて	・今年度のプッシュ型支援個別アプローチはどのような方法で実施したか。事例を提供してほしい。 ・今年度よろず相談を受けて、まだ課題が解決していない部局・課がある場合、その情報を提供いただけるか。また、未解決の部局・課に直接アプローチしてもよいか。	前段については、No5のとおりです。 後段については、優先交渉者と県との契約に向けた協議時に閲覧することは可能ですので、より効果的な取組となるようご提案をいただきたいと思いますと考えております。
7	6 業務内容 (3) DXアドコン利用促進・伴走支援業務 ③イ 行政手続のオンライン化に向けたプッシュ型の支援について	行政手続オンライン化を希望されている部局・課がすでにあり、どれぐらい数の部局・課があるのか。	県において行政手続のオンライン化を行う部局について把握しておりますので、その中から県が指定する部局に対してプッシュ型の支援を行っていただくことを想定しています。
8	6(3) DXアドコン利用促進・伴走支援業務 ④ 実務業務の伴走支援及び好事例等の横展開について	・事例の横展開について具体的にどのようなイメージがあるか。 ・県の協力は具体的にどのようなものがあるか。 ・県はプッシュ型支援との線引きはどのように定義しているのか。	横展開については、例えば支援事例をまとめた資料を作成し、庁内ポータルサイト等による展開といった手法が考えられますが、より効果的な手法がありましたらご提案いただきたいと思いますと考えております。そのなかで、県としてどのように協力できるか検討し連携して取り組んでまいります。 線引きについて、6(3)③アに示すプッシュ型支援は、課題があると見込まれる部局等に対しDXアドコンの利用拡大に向けたアプローチを行うもの、6(3)④に示す好事例の横展開は、類似課題を抱えていると考えられる部局に対し情報共有を行うことで業務改善の取組を促進するもの、として整理しています。

No	項目	質問	回答
9	6(3) DXアドコン利用促進・伴走支援業務 ⑤勉強会の開催について	オンラインで勉強会に参加する場合、コミュニケーションツールはTeamsでよいか。	No1のとおりです。